



現代の状況に適応した里山林管理を実践するための手引き書

「里山管理を始めよう ～持続的な利用のための手帳～」を発行

ポイント

- ・ 里山林を伐採によって若返らせ、薪として地域で資源利用するための具体的な手順と方法について手引き書を発行しました。
- ・ 里山林の保全や整備、資源としての活用に関心のある団体や行政機関、事業者に向けて作成しています。
- ・ この手引き書に示された里山林管理の手順と方法は、森林総合研究所関西支所が大阪市や長岡京市でおこなった実践的研究の中で、現実に実施できたことに基づいて書かれています。

概要

平成21年度から実施してきた社会実験的な研究プロジェクトの成果にもとづいて、現代の状況に適応した里山林管理を実践するための手引き書を発行しました。

この手引き書では、里山保全に関心のある市民団体や自治体、地域住民による里山林管理方法を解説しています。冒頭ではなぜ里山林を管理する必要があるのか、どのような管理が現在の里山林に求められているのかを説明しています。そして小面積皆伐によって里山林を若返らせるための具体的手順について解説するとともに、伐採した材を薪として地域社会で活用するための方法を提案しています。手引き書を通じた普及や指導によって、地域社会による適切な里山林の管理と利活用が広がっていくことが期待されます。

以下からダウンロードできます。

URL:

http://www.ffpri.affrc.go.jp/fsm/research/pubs/documents/satoyamakanri_201402.pdf

予算：交付金プロジェクト「現代版里山維持システム構築のための実践的研究」

問い合わせ

独立行政法人 森林総合研究所関西支所：支所長 吉永秀一郎

研究推進責任者：森林総合研究所関西支所 大住克博

研究担当者：森林総合研究所関西支所

森林生態研究グループ 主任研究員 大住克博

森林資源管理研究グループ 主任研究員 奥 敬一

生物被害研究グループ グループ長 衣浦晴生

生物多様性研究グループ 主任研究員 高橋裕史

神戸大学大学院農学研究科（森林総合研究所客員研究員）

黒田慶子

広報担当者：森林総合研究所関西支所 産学官連携推進調整監 奥田裕規

問い合わせ先：森林総合研究所関西支所 連絡調整室長 高橋公子

Tel：075-611-1201（代） Fax：075-611-1207

本資料は、京都府記者クラブに配付しています。

背景

1990年代以降、多くの市民団体や自治体が放置された里山林にレクリエーションや環境教育、生物多様性などの新たな価値を見いだすようになり、その保全管理に携わるようになりました。しかし近年、ナラ枯れや獣害が拡大したことで、従来型の間伐（抜き伐り）にとどまる整備や管理では里山林を持続させることが難しくなり、問題となっていました。

経緯

前身となった研究プロジェクト（平成18～20年度）では、成果として冊子「里山に入る前に考えること」を発行し、里山林の現代的な問題のメカニズムや管理の考え方について広く普及しましたが、普及先などからより具体的な管理手順や方法について指導や情報提供を求められるようになりました。

そうした要望を受けて、平成21～25年度にわたり交付金プロジェクト「現代版里山維持システム構築のための実践的研究」を実施しました。この研究では大津市および長岡京市の里山林を対象に、現在の状況に対応した新たな里山林管理を地域社会とともに実践し、管理手順について実証的なデータを蓄積する研究を行ってきました。

本手引き書はこの研究プロジェクトの主要な成果物であり、ここに示した里山林管理の方針や手順は、地域社会との協働により現実に実施できたことに基づいて書かれています。

内容・意義

この手帳では、ナラ類を主とした落葉広葉樹林としての里山林管理方法を解説しています。担い手は里山保全に関心のある市民団体や自治体、地域住民自身を中心とし、森林・林業に関わる事業者も補助的に参加することを想定しました。

最初に、里山林を管理することの必要性と、小面積皆伐による若返りを組み込むことが現代の里山林にとって望ましいことを説明しています。

続いて、小面積皆伐とその後の里山林の再生を実施するための具体的手順を解説しました。事前調査から伐採、事後調査、その後の管理と補植までの作業を含んでいます。

さらに地域社会が継続して里山林を管理していけるように、伐採した材を薪として活用するための方法について解説しました。

また、事前・事後調査に使用するためのフォーム類を付録として巻末にまとめました。

全体を通して、里山林と社会との関わりの持続性を重視し、地域社会で確実に始められ、自律的に管理ができることを目指した仕組みを提案しています。

今後の予定・期待

里山林の保全・管理には、多くの市民団体や自治体などが関心を寄せていることから、この手引き書を通して、社会への研究成果の普及を行っていきます。地域社会による適切な里山林の管理と利活用が広がっていくことが期待されます。